

1 えみふる ふあいるに関する専門部会

開催日時

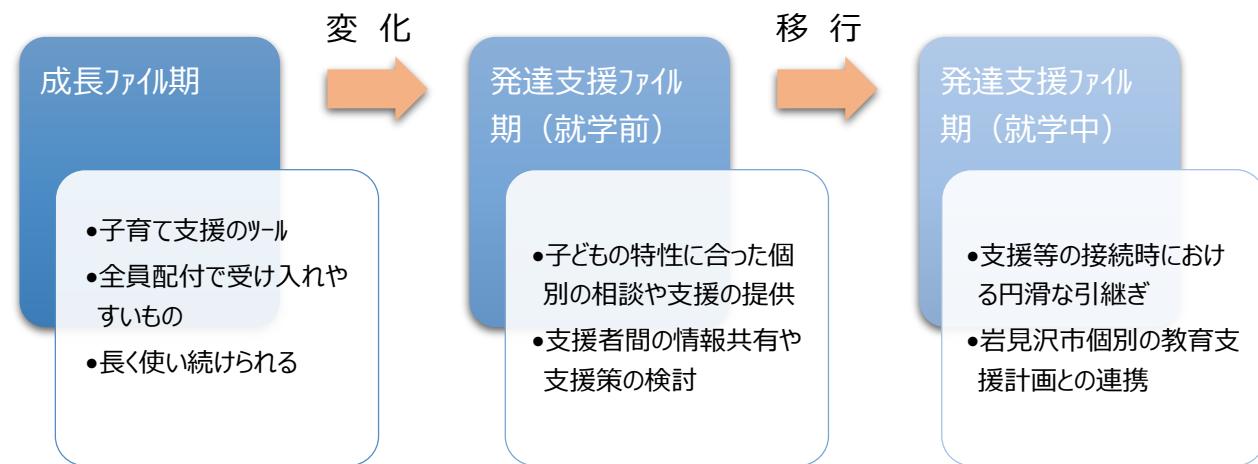
令和2年2月19日 であえーる会議室 1



会議の趣旨

令和元年9月の配付開始から半年が経過し、今後の課題となるファイルが効果的に運用され、使い続けてもらうための工夫や取組等について、主に保護者側の視点にたつて、協議。

保護者に使い続けてもらうための3つのポイントと工夫



◆ポイント1 保護者に対する声掛け

【工夫や取組】

- 幼稚園や保育園等で、全員を対象にファイルを紹介する場をつくる。
- 学校では特別支援コーディネーターから声掛けする。
※園や学校の負担とならないよう、任意での取組を拡げていく。
- 「きおくのポケット」の便利さや活用方法を各機関で広めていく。

◆ポイント2 ファイルが必要となる場面

【工夫や取組】

- 情報共有が重要であることから、入園時の面接等を機会とする。
- 就学相談の機会を発達支援ファイルとして持ち始めたり、成長記録ファイルから発達支援ファイルに変化するきっかけとして捉え、説明していく。
- 中学校在学時は、特別支援学級に限られるため、渡し方に配慮が必要。

◆ポイント3 保護者が感じるメリットなど

【工夫や取組】

- 1歳6か月児健診の際に支援が必要と保護者が受け取らないよう配慮が必要。
- 就学時の引継ぎとして、アレルギー対応などがわかると役立つ。
- ファイルの活用例、サンプルをHP上で公開する。
- 実際に活用しているモニターを募り、便利さや楽しさの声を届けていく。

2 令和2年度子どもの安全と安心に関する専門部会

(1) 第1回

開催日時

令和2年5月7日 書面会議

会議の趣旨

第2期岩見沢市子ども・子育てプランに位置づけた「子どもの体験活動の支援」の実施に当たり、「岩見沢市子どもの体験活動事業補助金募集要項案」ならびに審査実施要領案について協議。

結果概要

- 子どもの参加・過ごし方は、「自由に過ごせる」は削除し、「自発的に参加できる」にとどめる。
- 食事を提供する場合、安全面に注意すること。
- 新型コロナの感染拡大防止が継続し、活動が制約される場合の対応を明記。

(2) 第2回

開催日時

令和2年7月1日 であえーる会議室 1

会議の趣旨

募集要項をもって6月1日から19日までに申請があった案件を審査、選定。あわせて、活動に当たっての留意点を協議。

選定結果

※補助金額は、各10万円

補助事業名	主催団体	活動内容	開催場所
①こども食堂 げんき	国際ソロプチミスト岩見沢	子どもたちに昼食を提供するとともに、ゲーム感覚で遊びながら英語や算数を楽しんでもらう。新型コロナ感染防止のため、当面は会場開催を中止。市内の児童館に、手作り弁当を提供する。	5西2(ぶらっとパークⅡ)、当面は児童館訪問
②こども食堂	こども食堂「おひさまキッチン」	子どもたちに温かい食事を提供し、心身共に健やかにしてもらおう。貧困対策の一環となるよう努めたい。	4西14(天理教志文分教会)
③なんかする会?	なんかする会?(母たちが集結)	地域の子どもたちが安心して楽しく過ごし、様々な人と関わることのできる場所づくり ※事業従事者は、岩見沢プレーパーク研究会、森のようちえんの活動に携わる関係者など	志文小学校区内の公園
④そあそびの学び舎〜プレーパーク〜	TOMOYAとゆかいな仲間たち	岩見沢プレーパーク研究会の指導を受けながら、市内で地域型スポーツクラブを展開する団体や栗山で環境教育を実践している団体の協力を得て、創意工夫を凝らしたプレーパークを実施する。	東山公園ほか
⑤いわみざわこどもキャンパス	学生団体ヒトツナギ iwamizawa	大学に子どもが集まる時間を定期的につくり、子どもだけでは出来ないことを大学生がサポートする。子どもの本当にやりたいこと、自由な活動がのびのびと出来る環境を提供する。	北海道教育大学 岩見沢ほか

活動に当たっての留意点

- ①子どもの参加費は、できるだけ負担にならないようにする。
- ②継続的な活動をつなげるため、市の補助金以外に助成金や協賛金をもらう取り組みも検討する。
- ③PRは、SNSに頼るだけでなく、チラシなど情報が直接子どもの手にわたる方法を考える。
- ④緊急時に、医療機関、保護者への連絡、随行担当など、スタッフ間で役割分担を明確にしておく。特に、責任者は現場から離れないようにする。